

5/13 早稿

## 論説

2022.5.13

### 新型コロナ対策

# 知見生かして効果的に

大変連休が終わり、新型コロナウィルス感染症の拡大が懸念される。流行の始まりから約二年半がたつ。これまで得られた知見を生かした効果的な対策を講じる「より」感染拡大防止と社会経済活動の両立を図つた。

東京などでの新規感染者が連休明け早い段階で同時にあらわる、十一日目に開かれた厚生労働省の専門家会合は、連休中は診療や検査数が通常より少なくなつており、全国的に感染増加に至ったかどうかが判断できないと分析した。

ただ、これまで年末年始や連休など人の移動が増えるイベント後には感染が拡大している。連休を終えた今後は、新規感染者が増えると想定し、油断するな」となく感染対策を続ける。

効率的な対策の一つかクチンだため。三回目の接種率は高齢者では88.6%で、国民全体では約55%に上りきる。若い世代の接種者のへの接種を進める必要がある。

避けられは感染しても軽症で済むと思われるが、高齢者の高齢者や子どもを守るためにも接種は効果的だ。政府は引き続き、ワクチンの効果や副作用などの情報を積極的に伝えていくべきだ。

感染者は二十九では増加が見られる。若い世代で感染者数が増えているが、高齢者にもかかることが分かっている。高齢者施設や医療機関では定期的な検査実施と併せ、マスク着用を一気に行めて感染症状が悪化した場合、すぐに医療が受けられるよう、施設整備を盯めぬき進めるべきだ。

各個人ができる対策も再確認しておきたい。屋外で周囲に入らないなどが分かっている。飲食の場でも可能な限りマスクを着用するなど、効果的な対策は続けたい。

緊急警報発令の発令やまん延防止等級は着地適用のない今年の大連休中、各地は多くの人出でに走つた。長い連休を強いられた後であり、久しぶりに外出を楽しんだ人も多かつたりと見受けられる。

感染対策の難しさ、医療機関を招かないよう行動範囲を狭め、公共交通機関の利用を控え、手洗いと消毒を行なう場合、その手順と効果を理解しておきたい。行動規制を緩めたりと見受けられた。